

時代のニーズへの回答



DAIHATSU CAST

■テキスト=青柳 健司 (フォトライター) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=ダイハツ北海道販売 新琴似店 TEL(011)764-8551

主要諸元：Gターボ“SA II” (4WD)

- 全長×全幅×全高／3,395×1,475×1,630mm
- ホイールベース／2,455mm
- トレッド／前：1,295mm 後：1,265mm
- 車両重量／890kg
- 最小回転半径／4.7m
- エンジン／水冷直列 3 気筒 12バルブ DOHC インタークーラーターボ横置
- 最高出力／64ps / 6400rpm
- 最大トルク／9.4kgm / 3200rpm
- JC08 モード燃費／25.0km / ℓ
- ミッション／3 要素 1 段 2 相形
- ブレーキ／前：ベンチレーテッドディスク 後：リーディング・トレーディング
- タイヤサイズ／165/60R15
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／4 名
- 車両本体価格(札幌地区)／1,647,000 円

■意欲的にデビュー

ミラ、ムーヴ、タント、コペンと、ハイクオリティーで多彩な個性を持つ軽自動車を次々と生み出し、国内市場をリードし続けているダイハツ。であるがゆえに、現行のカーラインナップに唯一欠けている車種があったことに気付いていた人は、決して多くはなかったのではないだろうか。それが何を隠そう、オフロードに強いSUV系である。

2004年まで販売されていたネイキッドや、同12年まで販売されていたテリオスキッドの前例にも見られたように、これまでダイハツが開発・販売してきたSUVタイプの軽自動車に対する評価は非常に高く、それらを乗り継いできたユーザーから後継車種の登場を望む声も根強かった。そういった熱望にも似た思いに後押しされながら、先ごろ全国一斉に新発売となったのが、キャスト・アクティバである。このニューカマーの登場によりダイハツは、スモールカー戦線に対して一層強固な布陣をひくことが可能になった。

今回は、シティーユースに重きを置いたキャスト・スタイルが同時にリリースされさらに取材当日はオンロードでの走行性を高めたキャスト・スポーツの販売を目前に控えていた。そんな現状に、新たなブランドとしてキャストを打ち出していくこととする、ダイハツの意欲が強く現れている。

プロフィール



ディーラーメッセージ

ダイハツ北海道販売 新琴似店
カーライフアドバイザー

大谷 圭さん

ダイハツとしては待望のクルマの誕生で、おかげさまでたくさんの皆様にご注目いただいております。特に、テリオスキッドをはじめとしたSUVファンの皆様には大変ご好評です。ムーヴ譲りの信頼性に加えて、ダウンヒルアシストコントロールなどの新しい機能も搭載していますし、軽自動車としては大きめのタイヤを使用していますので、北海道の冬道にも自信を持っておすすめできます。



■満足度の高い走行性

グレード構成は、ベーシックなXを筆頭に、衝突回避システムなどを搭載したX「S A II」、LEDヘッドランプなどを備えたG「S A II」、ターボ仕様のGターボ「S A II」の4種で、それぞれFF車と4WD車が設定されている。このうち、試乗に提供されたのはGターボ「S A II」の四駆バージョンで、ポディーカラーをはじめカーナビなど各種オプションを備えたものだ。

乗ってまず実感するのは、ポディー剛性の高さ。ドアの開閉に程よいどしり感があり、気密性も高レベルにある。実際に、走行時の静粛性については、スモールカーの中でも極めて高い水準だ。最低地上高が高めであるがゆえに、視野もおおずと高めとなる。これにしっかりと静粛性が加味されると、メーターが示す速度と体感スピードに若干のズレが生じるようで、気付いた時にはイメージ以上に速度が出ているというシーンが数回あった。しかし、どんな場面でも車体は非常に安定しており、操作性も柔軟でケチのつけようもない。ターボの効果は絶大で、ストレスの少ない加減速を実現している。また、ステアリングにDアシスト切替スイッチが備わっており、ONにするとエンジン回転数を上げてスロットルをより高開度に制御するため、登坂道などでもスムーズな加速を保つことができる。大きなロール感もなく連続コーナーを機敏にクリアしていく走破性は、走りや系のドライバー

インプレッション

も十分に楽しめるだろう。

最小回転半径4.7mと小回りが利きやすく、混雑する街路や狭い脇道、さらに多くのドライバーが苦手としている縦列駐車なども全く問題がない。悪路への適応力の高さも考慮に入ると、雪解けシーズンの住宅街にありがちなスタッグへの不安など、アクティバには無縁なのではないかと思えてくる。

なお、試乗車はプレミア・インテリア仕様。レザー調シートの質感は上々で、ユーザー満足度は間違いなく高いだろう。上位車種からの乗り換え組、特に欧州車志向のドライバーも十分に納得しそうな、しっかりと作りの込みが実感できるに違いない。持ち前の個性的なスタイリングと相まって、輸入車からアクティバに移行するドライバーが増えていくことも、今後は十分に想定できるだろう。

■別バージョンにも注目

デザイン性の高いスタイリングと豊富なカラーバリエーション、そして充実した機能と快適な居住性を全て併せ持ったSUV系の軽自動車は、現代のニーズに最も適合したクルマのひとつと言える。ダイハツの現行ラインアップにそれが存在しなかったのは、今にして思えば都市伝説レベルの謎であった。何はともあれ、国内市場における軽自動車の活況は、キャスト・アクティバのデビューによりさらに加速していくに違いない。

この後、満を持して登場してくるキャスト・スポーツ。そのポディーには、一体どのような実力が備わっているのか。スモールカーファンならずとも、興味は尽きない。



■スタイリッシュな外観

ではまず、キャスト・アクティバのスタイリングから見て行こう。

写真でご覧の通り、フロントにはボンネットに沿って大きく楕円がかった形状のコンベーションヘッドランプをマウント。蜂の巣状にデザインされたグリルとのマッチングが何とも言えずキュートだ。その一方で、ポディーサイズに比べて大きめのフロントフォグランプとバンパーガーニッシュの存在感が、ワイルドなSUVらしいイメージを加えている。リアには円形のコンビネーションランプとフォグランプが縦にスッキリと配



■新機能も搭載

機能面に目を移すと、DAC（ダウンヒルアシストコントロール）がダイハツのラインナップにおいて初採用となった。これは、雪道などの滑りやすい下り坂や険しい傾斜を降りる際に、ドライバーがブレーキペダルを踏まなくても自動で車速を制御するシステムで、急なブレーキ操作によるタイヤロックを防ぐことが多いに期待されるもの。凍結したカーブなどでも、よりセーフティーな走行を実現してくれそうだ。また、滑りやすい道路などで片輪が空転した場合にも一方の片輪に駆動力を伝えてグリップ状態をキープする、グリップサポート制御システムも搭載した。悪路や北海道特有の厳しい冬道での安定走行性は、上位車種を凌ぐレベルにある。

もちろん、衝突回避系のシステムや車線逸脱警報機能、誤発進抑制など、ダイハツならではの安全運転支援システムも各種備えており、路面状況や天候に左右されない安心設計も、アクティバのストロングポイントとなっている。

ルーもしくはオレンジに仕上げるインテリア・アクセントカラーや、レザー調の加工を施したシートなどがパッケージされたプレミア・インテリアのオプション追加も可能。また、ルーフトップとドアミラーをホワイト仕上げにしてポディーをツートーンにコーディネートしているカラーもオプションで用意されており、よりスタイリッシュな一台を持ちたいというアーバン志向のユーザーの要求にもしっかりと応えている。